

# 第4回委員会の主な検討内容

## (1) 武蔵野市民科の目標・育みたい資質・能力について

- ①「武蔵野市民科とは」といった定義が一言で表せるとよい。
- ②武蔵野市民科は、武蔵野市の特徴や課題を見つけ、自他共によりよく過ごせる能力を養っていけるという部分を強めていけるとよい。
- ③武蔵野市民科において重要になってくるのは「学びに向かう力や人間性等」といったことになってくるのではないか。
- ④目標や定義については、今後、小中連携教育研究協力校の実践とも関連させて考えていけるとよい。

## (2) 境南小学校の実践及び取り扱う内容についての議論より

- ①「総合的な学習の時間」で20時間など多くの時間を使って実践する单元については、自ずと市役所をはじめとした関連する人が出てくる。「特別の教科 道徳」もユニットとして関連してつながってくる。
- ②教師主導で教え込むのではなく、課題を見つけ解決していこうとするプロセスを大切にしていけば一定時間の時間数が必要になってくる。
- ③中学校だと、教科担任制ということもあり、多くの時間数を確保することが難しい。小学校で蓄積してきたことをうまくつなげていくことが重要になる。
- ④「自分たちが提言する」といったところまで中学校3年生くらいだとできるかもしれないが、現在の前提となっている中学校1年生までの学習となるとどこまでできるか。セカンドスクールを関連させるなら、訪問地の学校との交流会で互いのまちのよさや課題についてプレゼンテーションし合い、さらに改善するにはどうしたらよいか話し合うといった実践は行われている。
- ⑤キャリア教育との差別化が難しい部分がある。例えば、「武蔵野市ではキャリア教育も含めて市民性を高める教育とする」といったことも考えられるのではないか。
- ⑥武蔵野市民科を進めていくために、各校にいる地域コーディネーターに一層活躍してもらえるとよい。
- ⑦各教科で学んだことを総動員し、「いかに生きるか」ということを考えられるとよい。
- ⑧活動や内容ありきではなく、どのような資質・能力を育むかに常に考えていく必要がある。
- ⑨教科横断的にやる場合は、内容をかなり明確にしないと形骸化してしまう。
- ⑩これまで、各校で指導計画を作成する際に「市民性を高める教育」に関連する部分ができるようにしてきたので、それが整理されるとよい。